

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0392100103		
法人名	(株)アルテライフ		
事業所名	グループホーム えがおの花大釜(あやめ)		
所在地	滝沢市大釜大畑72-6		
自己評価作成日	平成29年2月14日	評価結果市町村受理日	平成29年6月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/03/index.php?act=on_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&ji_gyosyoCd=0392100103-00&Pr_efCd=03&Ver_si_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成29年3月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業開始から4年が経過しましたが、定員の半数が開設時以来入居いただいております。若干身体機能の低下が認められる方もいるもののお元気で過ごされています。ゆったりとした家庭的な雰囲気の中で、好きな活動を楽しみながら過ごせるよう一人ひとりのニーズ把握、活動の工夫などを行っています。身体の状態に応じ、かかりつけ医から訪問診療医への引継ぎをしていただき、ご本人に負担がかからない医療を受けられるようご家族と相談しながら進めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、一般住宅に囲まれた新興住宅地の中に、広々とした敷地と菜園を備え、施設は南向きのゆったりとした間取りで各機能が効率よく設置されている。運営にあたっては、法人の経営理念と行動指針のもとに、理念の「縁」を職員で共有し、利用者の以前の生活や地域との関わりを大切に、利用者職員が共同生活者として、利用者の持つ能力を活かし、自立の支援をしている。また、利用者ごとの担当職員を定め、日頃の生活を通じて心身の状況や要望等を捉えるとともに、家族への連絡を密にし、家族の要望など意向を把握し、利用者へのサービスの向上に努めている。さらに、なんでも話しやすい雰囲気を醸成し、利用者の生活状況に合わせた勤務時間帯の変更や備品の購入整備など、職員提案を採用し、機能的な運営に生かしている。なお、運営推進会議の年間開催計画や毎回開催のテーマを定め、予め内容の検討と詳細な記録のもと、会議の充実を図っているほか、警察官や消防署員の参加を求め、行事や事業所運営への助言、指導を得て、より効率的な運営に配慮している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社・事業所の基本理念・運営指針を定め、日々意識しながら介護実践につなげられるようにしている。	理念の「縁」は、開設当時職員で話し合い、利用者それぞれの生活歴や家族、友人、地域とのつながりを大切に、サービスの提供を行っている。年数回の職員会議や毎日の引継ぎにより、経営理念や行動指針を唱和するとともに、注意事項などの業務連絡を通じて、理念の確認、共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の情報を事業所内にフィードバックするようにしている。	自治会にユニットごとに参加し、回覧板による情報の入手や、地域の環境クリーン作戦に参加しているほか、子ども会の段ボール回収への協力など、地域との関わりを大切にしている。	事業所の行事について、パンフレットなどを活用し、地域住民に周知するとともに、参加の機会の創出や避難訓練などに地域の協力、支援を得るため、より一層の工夫を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	滝沢市包括支援センターが主導して開催している「おれんじカフェ」(認知症カフェ)の運営に管理者が参加しているほか、滝沢市の「認知症まちかど相談」事業を請負い、地域の方からの相談に応じる体制を作っている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議においても評価への取り組み状況を報告し、家族アンケートの結果等とあわせてみていただき意見をもらっている。	地域の自治会や民生委員、農協の介護支援事業所の担当者等の参加を得て、委員の参加しやすい夜間の時間帯により、年間計画に基づいたテーマで充実した会議を開催し、運営に活かしている。さらに、警察官や消防署員の助言や指導を得て、行事や避難訓練を実施し、より精度の高いサービスを提供している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	滝沢市担当者(高齢者支援課・包括支援センター)との連携は良好である。	運営推進会議では、包括センター職員の出席により、行政情報の提供と関連施策に関する指導を得ている。市主催の「認知症カフェ」への参加や、「認知症まちかど相談室」を請け負い、地域の相談に対応している。また、認知症の区分変更や生活保護の事務など、家族の要請より職員が代行している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束が利用者様にとって良くないということを職員全員が理解し、拘束する必要のないケアの実践を心がけている。	身体拘束の勉強会を、管理者を講師として開催したほか、市やグループホーム協会の研修会に職員を派遣し、知識の習得に配慮している。身体拘束の事例について、各ユニットで話し合い、言葉遣いや転倒予防の対策など、意識の徹底と未然防止に努めている。玄関は夜間施錠し、ベッドにセンサーを設置している。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームえがおの花大釜(あやめユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待事例やニュースなどを例示しながら、利用者様の心身を傷つけることのないよう職員間で申し合わせている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各事業の概要について理解し、必要のある方についてはご家族などに相談して利用を勧めるなどしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申込を受ける前に事業所の概要や特長について十分説明を行い、納得いただいた上で申込を受けている。入居契約の際にも再度説明を行うほか、疑問点があれば都度問合せに応じ、納得いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様においては、滝沢市より定期的に介護相談員の訪問があり、利用者様に直接話を聞いていただき要望や意見などがあれば事業所側に代弁していただいている。ご家族からも訪問の際職員から問いかけるなどしながら意見・要望の吸い上げに努めている。	家族の意向は、事業所への訪問時やかかりつけ医に同行の際に伺うほか、毎月の請求の際に、担当者からの連絡を通じて要望を聞いている。遠隔者については、電話やメールでの申し出を受けている。利用者からは、歌、散歩の要望があるほか、外食時には希望料理やデッキでの流しソーメンなどを提供している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にユニット・全体で会議を持つ、ユニットリーダーと管理者・社長との打合せを必要に応じて行うなどし、運営に反映させている。	職員の提案により、整理棚の設置による調理小物の整理のほか、利用者の生活に合わせて、朝時間帯の早出勤務などを実現した。また、職員から提案のあった畑の植え付けも行なっている。職員の資格取得や研修会への参加も、希望に沿っているほか、緊急時や産休などについても、職員の協力を得て、シフトの変更などで対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	契約社員を正社員として登用できる制度を設けているほか、資格をとりたい場合は受講日に配慮して休日を振るなどの配慮を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ユニット単位での研修の機会を設けたり、外部の研修に参加する機会を設けたりしているが、十分とはいえない。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームえがおの花大釜(あやめユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の交換研修を実施したが、管理者以外の職員が同業者と交流する機会については十分持っていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	困りごとや不安のある様子のあるとき、傾聴し安心される声かけに努めている。本人の気持ちを受け止めて上げられるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望も取り入れながらサービスを行っている。月1回お手紙で暮らしぶりなども伝え関係づくりを行っているが、家族との関係構築が難しいケースもある。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の思いや家族の意見を聞き、ご本人の現状を見極めて支援の方法や内容を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ともに生活していく環境のなかで、出来そうな作業は一緒に手伝ってもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診や面会時には、家族と一緒に時間を大切にしよう努めている。手紙や電話などで近況を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人との外出、なじみの美容院の利用が続けられるよう支援している。	家族は、1～3ヶ月に1回は訪問している。墓参に出かけ外食するほか、友人と近くのカラオケやボランティアの踊り教室に出かける利用者もいる。ドライブで地域のお祭りや文化祭の見学に出かけた際に、自宅周辺を周回している。理容は訪問対応であるが、美容は馴染みの店(家族の店舗など)に出向いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格や行動パターンなどを把握し、状況に応じて仲立ちしたり距離を置いたりするなどの支援をしている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームえがおの花大釜(あやめユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	随時様子伺いをしたり、情報交換をするなどしてフォロー体制をとっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを傾聴することで悩みなど見えてくるものもある。一人ひとりの暮らしの希望に出来るだけ沿うように、と考えているが、集団生活のなかで他の利用者様への影響や、本人の心身の状態などを考えると難しいケースもある。	利用者ごとに担当者を定め、日々の生活の中で、より利用者の心情に沿い、変化や希望などの把握に努めるとともに、日報に状況を詳細に記録し、職員間で回覧、共有し、より良いサービスの提供に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族からの聞き取り、入居の際担当ケアマネージャーからの情報提供により、経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りや記録を参照し、状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員や他のスタッフとの話し合いの中で意見を集め、総合して支援計画を作成している。家族との話し合いが十分取れていない点もある。	利用者ごとに担当者が状況をまとめ、他の職員を含めて話し合い、計画作成担当者に引き継いでいる。また、医師の指示や看護師の助言を得ているほか、家族の意向を訪問時などに聴くとともに、遠隔地の家族の意見や要望を電話等で伺い、計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24Hシートを使い、個別に日々の状態を記録している。職員間でデータを共有し、ケアの見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	それぞれのご家族や本人の状況に応じて通院や買い物代行など支援しているが、柔軟・多機能化には至っていない。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームえがおの花大釜(あやめユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの慰問や訪問看護・訪問診療(内科・歯科)、訪問理容等必要に応じて利用・活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の状況を踏まえてご家族の意向を聞きつつ、適切な医療機関(かかりつけ・訪問診療など)と連携し適切な医療を受けられるようにしている。	入居時からのかかりつけ医の受診者は7名、認知症の専門医は3名、訪問診療は5名であり、それぞれ家族の了承を得て変更している。受診は、原則家族同伴であるが、家族からの要請を受けた時は職員が対応している。家族へは、身体の情報を提供するほか、医師へファックスにより連絡し、情報を共有している。精神科などは、職員が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携契約を訪問看護ステーションと締結しており、週1回健康状態の確認のため来所してもらっている。その際に個々の健康相談に応じてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医との連携を密にしながら、入院が必要になった場合でも入院先の病院と連携して状態の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	一人ひとりの状態を把握した上で、ご家族・意思と話し合いを行い、職員間で情報を共有しながら取り組むようにしている。	重度化した場合の対応は、入居時に家族に説明しており、看取りについても家族の希望に合わせて対応することとし、承諾書を得ている利用者もいる。なお、重度化した場合は、訪問看護師の助言や指導、訪問診療医やかかりつけ医の指示のもとに、改めて家族に確認し、対応することとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	個々の職員の知識等はあると思うが、定期的な訓練等は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は実施しているが、実際に地域との協力体制がどの程度でできるのか心配な点もある。	避難訓練は、2回開催し、1回は夜間7時に実施した。運営推進会議の委員の参加のほか、消防署員、警察官の指導を得て、部屋の点検、戸締り方法などを確認した。水防対策は、ハザードマップで地域の避難場所を確認した。食糧の備蓄は3日分、カセットコンロを整備しており、発電機は今後導入の予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳を守りながら、声かけや台度に気をつけている。プライバシーにも配慮している。	個人情報、パソコンで管理しているほか、紙媒体としてはフォルダーで保管している。入力には職員が行い、パスワードで管理している。広報への写真掲載は、家族の了承を得ており、配布先は家族だけである。排泄の失敗など、心情に配慮し、優しい言葉遣いでそれとなく誘導し、他者に気づかれないよう対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションの中で思いや希望を聞き、自己決定につながるよう声かけの工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ本人のペースに合わせた生活を考えているが、難しさもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	気を配るようにしているが、本人の気づきが得られず難しいところもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は難しいが、準備(お茶入れ・テーブル拭き・食器拭きなど)を手伝ってもらっている。誕生日などイベント時は好みのメニューを取り入れている。	メニューは、ユニットごとに職員が作成し、料理を提供している。食材の買出しに利用者も同行し、利用者の希望を取り入れている。季節の野菜やスイカなど、家族の差し入れのほか、ひな祭りの散らし寿司、夏の流しソーメン、冬至のかぼちゃ、外食の回転寿司、唐揚げ、郷土食のひつまみ、誕生日の刺身などを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定時の水分補給を行っているが、摂取状況を見て随時調整している。体重変化を把握し、食事の摂取量についても見直している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後促しや介助により実施している。個々の状況によっては難しい方もいる。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームえがおの花大釜(あやめユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に応じてトイレ誘導するなど、トイレでの排泄が出来るように促している。排泄パターンが一定でないためにトイレでの排泄が難しい方もいる。	利用者ごとに排泄パターンを把握し、それとなく仕草を見て誘導している。自立している方は7名、全介助は2名、見守りとパンツの上げ下げの支援は6名である。夜間のポータブルトイレの利用は1名である。立ち上がりセンサーにより、夜間に誘導している利用者もいる。夜間はリハビリパンツとパット併用しており、オムツの利用者も2名いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食べ物や薬などでの排便コントロールを行っている。薬も漫然と服用させるのではなく、その時の状態に応じて加減して使用している。(医師の許可を得て)		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯は決めているが、一人ひとりの体調や気分、その日の予定などを考慮して実施している。	週3回の入浴から、現在は週2回に減少しているが、職員の確保次第、3回に戻すこととしている。入浴を嫌がる方や立ち上がりの難しい利用者には、シャワーで対応している。入浴剤の活用やゆず湯、菖蒲湯など、季節感に配慮しているほか、歌や昔話、2人入浴など、楽しい入浴に心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣に応じてゆっくり休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示を理解したうえで服薬支援を行っているが、副作用については理解不足の面もある。変化あるときは主治医と相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活を送る中での役割を担ってもらったり(食事の準備・掃除・洗濯たたみなど)している。本人の趣味を生かした活動を取り入れている。ドライブや外食など気分転換の機会を設けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望はないが、皆さんに声をかけての散歩や外出を行っている。ご家族に協力いただければ本人ももっと楽しみが出来るのではないかと思います働きかけているが・・・。	事業所の中庭や周辺、近隣の公園への散歩のほか、買い物でコンビニに出かけている。畑作業は、5～11月まで、枝豆、ピーマン、トマト、大根、イチゴなどを栽培し、職員と利用者が共同作業をしている。ドライブでの花見、紅葉、地域のお祭り、文化祭などの見学に出かけている。踊り教室、カラオケに出かける利用者もいる。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームえがおの花大釜(あやめユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自身での金銭管理は難しいため、事業所でお預かりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・手紙のやり取りはほとんどないが、職員と様子について話した後に本人に代わり少しの間話している程度である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは常に明るく清潔感の持てるようにしている。利用者様と一緒に季節の装飾などを作り、ゆったり過ごせる空間作りを心がけている。テレビの音量など、不快な思いをさせないよう配慮している。	事業所の明るい日差しのもと、淡い色調のロビーは広々としており、食食用テーブル、ソファが設置され、利用者は、テレビを見たり、新聞、読書など思い思いの場所でくつろいでいる。温度は、エアコンで管理され、空気清浄機や加湿器で空調、湿度が適度に調整されている。脱衣所は、パネルヒーターと扇風機が置かれ、体調に配慮されている。季節の作品、行事写真を掲示しており、雰囲気づくりに役立っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室だけでなく、食席やソファ・畳の場所など、気の合った利用者同士で過ごすことができたり、ひとりで新聞や本を読んだりすることができるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や寝具は自宅で使い慣れたものを用意していただくようにしている。	入り口の脇には、20センチ角の箱がメモリアルボックスとして設置され、思い出や趣味などの品物が置かれている。部屋には、ベッド、クローゼット、混合栓の流し、エアコン、加湿器が整備され、テレビや小タンス、衣装ケースが持ち込まれている。家族写真などが飾られ、それぞれの意向に沿った暮らしやすい環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の機能を生かしつつ、必要時には安全な福祉用具を活用し、介護される側もする側も安全に負担なく過ごせるよう配慮している。		